

# 佐賀県立博物館・美術館報

No.76

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL.0952(24)3947



## トリケラトプス（骨格模型）

（北九州自然史博物館蔵）

アメリカ・ワイオミング州の中生代白亜紀後期の地層から見つかり、類似種はモンタナ州やコロラド州からも産します。今から約7000万年前の草食動物で、全長は7 m、頭の長さが2 mあります。眼の上の1対の角と鼻の上の1本の角が武器となっています。この角は、肉食動物から身を守るためや雄どうしの争いに使われたといわれています。

トリケラトプスは爬虫類の角竜綱に属します。この仲間は、アジアから北米・中米まで確認されています。

この当時は、湿地帯や森林が発達し、セコイア・イチョウ類・ポプラ・ヤシ・ヤナギ・カエデなどの樹林が茂り、低木や下草が地面をおおっていました。トリケラトプスは、これらの若芽や下草を主食として生きた動物です。

目次	○トリケラトプス（骨格模型）	表紙
	○昭和62年度特別企画「森林と文化展」	2 P
	○展示概要	3 P～7 P
	○行事のお知らせ	8 P

## 昭和62年度特別企画

### 森林と文化展

**主 旨** 長い地球の歴史の中でつくられた森林は、自然が生んだ人類の財産です。この地球のみに存在する貴重な財産も、近年世界的な規模で減少が進んでおり、森林の保護育成が必要な時期にきています。

また、人々は昔から森林に食べ物や生活の場を求め、建造物、食糧、衣服、農漁具、家具、工芸品など、さまざまな分野の素材を森や緑、そこに住む生物から得ていました。

本展覧会は、昭和62年5月、全国植樹祭が佐賀県で開催されるのを機会に、県内各地で進められている森林や緑を守り育てる運動、地史および動植物の調査、森林と人々の生活を紹介し、合わせて照葉樹林文化の特色を探るものです。

**主 催** 佐賀県・佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館・第38回全国植樹祭実行委員会

**協 賛** 佐賀県緑化推進委員会

**会 場** 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 〒840 佐賀市内1丁目15-23 電話 (0952-24-3947)

**会 期** 昭和62年5月2日(土)～5月31日(日) (但し、期間中6・11・18・22・23日は休館します。)

**観 覧 料** 大人500円 (400円) 大学生250円 (150円) [高校生以下は無料]

( ) 内は20人以上の団体

**講 演 会** 演題 「みどりのある風景」

日時 昭和62年5月16日(土)14時～16時 聴講料無料 [美術館ホール]

講師 九州芸術工科大学教授 杉本 正 美

**解説パンフレットの発行** 展示資料に関する解説パンフレットを無料配布します。

#### 主な展示品

森林のはたらき (ジオラマ)・郷土の春の森林 (ジオラマ)・マンモス骨格標本・古生代植物化石・中生代植物化石・珪化木・カネコシダほか佐賀県産植物標本・キリシマミドリほか佐賀県産の蝶・佐賀県産トンボ・佐賀県産甲虫類・オオカミほか獣類標本・イヌワシほか鳥類標本・佐賀県産有用材・バイオテクノロジーのパネルと見本・胴引き関係用具・木挽き用具・竹細工 (製作用具・製作工成品・竹細工製品)・浮立面 (製作用具・製作工成品・浮立面)・樽 (製作用具・製作工成品・樽、桶製品)・独楽 (製作用具・製作工成品・独楽製品)・鍛冶 (製作用具・弁製作工成品・各種鍛冶製品)・ツバキ油絞り関係用具・木蠟製作用具。

#### 展 示 構 成

##### I 森は生きている

- 1 森林の歴史
- 2 森林のはたらき
- 3 人びとと森のめぐみ

##### II 郷土のみどり

- 1 佐賀県の自然と植物
- 2 佐賀県の昆虫類
- 3 佐賀県の鳥獣類

##### III 森と人々のくらし

- 1 森のくらし
- 2 森の利用
- 3 バイオテクノロジー

##### IV たかめよう緑の力

- 1 森林の保全
- 2 森林の活用
- 3 後継者の養成

## 第1分野 森は生きている

### 1 森林の歴史(展示項目:地球の歴史・植物の上陸・花の咲かない森・裸子植物の森・石炭の森・人類初期の森)

いまから約4億年前の古生代(シルル紀)に、植物は陸地への上陸をはじめました。はじめに上陸した陸上植物は、古マツバラン類に属するブシロフイトン類でした。

地上最初の森林が生まれたのは、約3億年前の石炭紀です。この頃、大きな湖沼のまわりはうっそうとした林によっておおわれるようになり、この植物群が密林(ジャングル)へと発達していきました。この頃栄えた植物は、リンボク・フウィンボク・ロボクなどのシダ植物です。中生代はソテツやイチョウなどの裸子植物が茂り、トリケラトプスのような恐竜が出現しました。カシ・カエデ・シュロのような現在の被子植物が栄えたのは新生代になってからで、佐賀県の石炭がつくられたのは新生代・古第三紀の時代です。



珪化木(中生代)



マンモス(新生代)

### 2 森林のはたらき(展示項目:世界の植生区分・世界の主要森林地帯・世界の森林破壊・森の誕生〔遷移〕・光合成が作る食糧・共存共栄する生態系・緑のはたらき・森林のはたらき)

岩や砂の裸地から森林が育つまでには、長い年月がかかります。

何百年・何千年もの年月が育んできた森林が急激に少なくなっています。東南アジアや南アメリカの熱帯雨林は失われ、アフリカやオーストラリアでは砂ばくが広がり、ヨーロッパでは大気汚染による酸性の雨が木を枯らしています。このように世界の森林破壊が進む一方で、植林が盛んに行われているところもあります。日本では昭和50年頃から森林を総合的にみる考えができました。佐賀県では、木材生産や水源かん養林、さらに、休養林と緑の多い郷土をめざし緑化運動を進めています。裸地から森林が育つようす、森林の生態系のはたらきなどを紹介します。



森林のはたらき(ジオラマ)



酸性雨による森林破壊(ヨーロッパ)

### 3 人びとと森のめぐみ (展示項目: 照葉樹林と縄文人の暮らし、弥生・古墳文化と木の利用、古代・中世の暮らしと木、近世・木の消費と保護政策、近現代・進む森林開発)

今から1万年ほど前に最後の氷期が終り、やがて縄文時代の西日本には照葉樹林が広がりました。シイやドングリ類をはじめとする森のめぐみは、それ以来つい最近まで大切な食料として利用されています。米作りが盛んはじめた弥生時代になると鉄製工具が出現し、森の一部は水田や畑となって二次林も生まれました。土木技術が発達した古墳時代に続いて、古代の律令体制の形成期には大陸から建築技術が体系的に伝わりましたが、都城の造営に伴って一部では森林破壊も進行しています。しかし中世までは森と人とは調和的關係にあったようです。中世末に始まる大鍋や台鉋の使用は建築や木工が大きく発展する礎となりました。木の需要が一層増大した近世には植林と乱伐防止が計られました。そして近代以降も佐賀では植林が進み、人工林率は日本一となっています。しかし、今、森と人との結びつきに新しい調和が求められています。



4,000年前の実から成長したアラカシ(博物館屋外展示場)



炉木の消費(肥前国産物図考より)

## 第II分野 郷土のみどり

### 1 佐賀県の自然と植物 (展示項目: 日本の植生図・佐賀県の植生図・多良山系の植生図と植物標本・黒髪山系の植生図と植物標本・脊振山系の植生図と植物標本・天山山系の植生図と植物標本・海岸の植生図と植物標本・湿地の植物標本)

佐賀県は九州の北西部にあり、日本の植生図でみますと照葉樹林帯に含まれます。アラカシ・スダジイ・タブ・ヤブツバキなどの常緑広葉樹が茂っています。本州中部より東に発達する夏緑樹林は、佐賀県の脊振山系と多良山系の標高700m～800m以上の山地にわずかに残っています。佐賀県が原産地の植物には、天然記念物となっていますカネコシダの他に、日本で黒髪山だけに産するクロカミラン・ヒレフリカラムツ・クロカミシライトソウがあります。その他の原産地植物には、九千部山で採集されたハガクレカナワラビやクセンツツジなどがあります。



黒髪山



ツクシシヤクナゲ

2 佐賀県の昆虫類 (展示標本：佐賀県の蝶・日本の蝶・世界の蝶・佐賀県産蛾類・佐賀県産甲虫類・佐賀県産トンボ類)

佐賀県の昆虫相の調査がゆきとどいているのは、蝶類96種 (迷蝶12種を含む) とトンボ83種 (迷トンボ2種を含む) です。そのほか、甲虫類や蛾類は県内各地の採集記録が発表されており、種類数が次第に明らかになってきています。

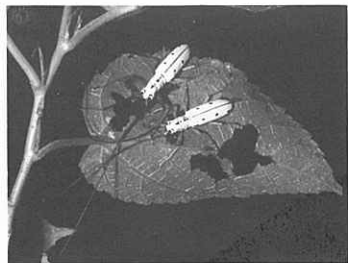
脊振山地のブナやアカガシ林には、キリシマドリシジミやフジミドリシジミなどの蝶、ヨコナガヒゲナガミキリやキシタバ・エゾゼミなど山地性昆虫がいます。

九千部山の渓谷や多良山系渓流には、ムカシトンボがわずかですが産します。

佐賀平野のミカドアゲハは最近多くなり、平野に点在する高木に生息するオオクワガタやクワから採集されるムネホシシロカミキリは、佐賀平野を代表する甲虫です。大型のカラツオサムシは、唐津地方を中心に生息します。



イシガケチョウ

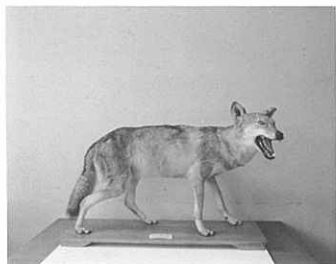


ムネホシシロカミキリ

3 佐賀県の鳥獣類 (展示標本：オオカミ・イノシシ・ニホンシカ・リス・ホンドイタチ・ホンドタヌキ・ホンドキツネ・コシジロヤマドリ・サンコウチョウ・チョウゲンボウ・ヤマシギ・ミソサザエ・クマタカ・イヌワシ・キジ・ヤマドリ・コウライウグイス・トラツグミ・ツグミ)

佐賀県における大型獣はイノシシだけで、シカ・クマは生息していません。中型獣としては、ニホンザル・キツネ・タヌキ・アナグマが生息しています。小型獣としては、ノウサギ・イタチ・テンなどが生息しています。ニホンザルは脊振山系・天山山系に古くから生息し、多良山系にも生息しています。イノシシは多良山系と脊振山系に出現し、脊振山系は最近数が増加しています。キツネ・タヌキは山間・山麓に生息しています。

佐賀県の野鳥生息数は昭和61年12月未現在で59科309種 (亜種を含む) で、県鳥であるカササギを始め増加の傾向にあります。



オオカミ



ホトトギス

### 第III分野 森と人々の暮らし

#### 1 森の暮らし（展示項目：植林・胴引き・枝打ち・山の神・薪の利用・炭焼き・狩猟）

佐賀県は比較的温暖湿潤であるため、林木成育の自然条件に恵まれています。現在では、佐賀県の森林面積はおよそ108,000ヘクタールあり、佐賀県総面積の44パーセントに及んでいます。

森林とそこにすむ動物・植物と共存しつつ利用してきた暮らしの中から山村特有の文化が生まれました。しかし、奥深い山地に至っても道路が発達をして近代化の波がおしよせると、平地との交流が盛んになりました。やがて山村の生活様式は平地のそれへと同化していき、山村特有の文化はしだいに失われていきました。

自然と調和的關係を保ってきた山村文化に今、新たな關係が生まれています。



枝打ち



胴引き



鳥獸供養塔(神埼郡三瀬村 宿)

#### 2 森の利用（展示項目：竹細工・浮立面・樽・独楽・鍛冶屋・油絞り・木蠟）

常緑広葉樹林は、関東平野から西日本の低地一帯に見られる森です。佐賀県に分布する森林もその中に位置し、カシ・シイ・クスノキ・ツバキなどの有用樹種が見られます。これらの葉は、年間をとおして深みのある緑色をしており、葉肉が厚く、光沢があることから照葉樹とも呼ばれます。

人々は古くから、これら多くの樹木を利用し、日常生活と深いかかわりをもってきました。その中で樹木のもつ、耐久性・木目の美しさ・香り・加工のしやすさなどの特性を見抜き、たくみに使い分けてきました。

長い歴史のなかで、人びとが木をどのように加工・利用してきたかということに着目してみると、各展示品には、製作技術に裏づけられた細やかな人と木との対話を見ることができます。



浮立面作り



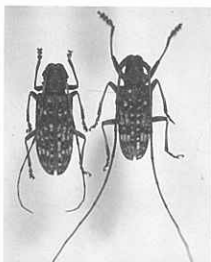
樽作り

3 バイオテクノロジー (展示項目: ミカンのバイオテクノロジー・植物の突然変異体の作出・薬培養の育種の利用・細胞融合・組換えDNA・受精卵移植技術・生物防除)

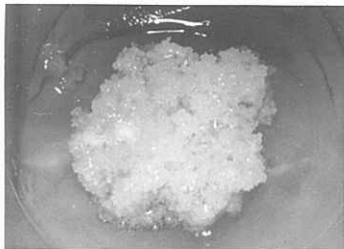
今までの農業は、作物や家畜を育てることから始めましたが、最近の農業は、生命現象を人為的に操作することによって、生命のなぞを解こうとしています。また、将来の農業問題を解決するために、バイオテクノロジーの技術が使われています。

現在使用されています組織培養技術(胚培養・カルス培養・薬培養・生長点培養など)や組換えDNA技術、さらには細胞融合を利用して優良品種の育成を行い、収量の増大や生産の安定化をはかろうとしています。

また、畜産の分野では、初期胚の分割移植による優良系統牛の増産や組換えDNAによる、家畜用ワクチンの生産などが期待されています。さらに、化学薬品を使用しないバイオ農業(生物防除)の開発も注目されています。



マツノマダラカミキリ



ミカンのカルス(未分化の細胞塊)

第IV分野 たかめよう緑の力 (展示項目: 第38回全国植樹祭記念緑の歌、全国植樹祭の歩み、市町村の木と花、国・県指定天然記念物、佐賀県内に組織された緑の少年団、森林の活用、森林浴の森、伊万里農林高校の林業教育)

日本列島を覆う森林は、①国土を守り、②水をたくわえ、③気候をやわらげ空気をきれいに、④レクリエーションの場を提供し、⑤心身の健康を維持増進、⑥騒音を緩和する、⑦うるおいのあるまちをつくる等の、人類生存の基礎を形成しています。

このような、うるおいのある生活環境を保つため、緑の保護とその育成が私達に課せられた重要な使命となっています。しかし森林の緑は、山村からの人口流出や木材の需要の減少から林業生産活動の停滞へと進み、森林の荒廃をつくりだす原因となっているようです。

そこで、次代を担う青少年をはじめすべての県民の緑化推進に対する意識を高めるため、県民総参加のもと、『第38回全国植樹祭』が今年5月24日に開催されようとしています。



イチョウ並木



第38回全国植樹祭 シンボルマーク

## 博物館・美術館日誌（昭和62年）

1月5日	執務始め式	2月18日	佐賀大学教育学部美術・工芸科 卒業制作展 (2月22日迄)
1月13日	第9回さがが行動展(1月18日迄)	2月21日	博物館研究講座(歴史・文学講演会) 「佐賀の近世文学—古川松根展によせて—」 佐賀大学教授田中道雄先生
1月15日	成人の日により常設展無料開館	2月25日	第16回九州グラフィックデザイン展 (3月1日迄)
1月21日	佐賀大学書道部OB展(1月25日迄) 広報連絡会(NHK主催)	3月3日	金子剛と101人展(3月8日迄)
1月23日	常設特別展「古川松根展」(3月1日迄)	3月5日	博物館見学(国学院大学57名)
2月3日	第25回高等学校デッサン大会	3月12日	昭和61年度新収蔵品展(4月5日迄) 全日写連佐賀県本部展(3月15日迄)

## 行事のお知らせ（昭和62年度）

### 常設展(第1期)

展覧会名	会期	観覧料	会場
佐賀県の歴史と文化	4月1日～6月28日	大人 200(150) 大・高生 150(100)	博物館
近代の美術・工芸	4月1日～4月5日	中・小生 70(50)	美術館

## 62年度のおもな企画展

展覧会名	会期	会場	内容
森林と文化展	5月2日 ～5月31日	美術館	第38回全国植樹祭を記念し開催するもので森林の成立と動植物や人間生活とのかわりをおもえるもの
人間国宝 中里無庵とその周辺展	7月4日 ～7月19日	美術館	無庵を中心に陶芸作品約100点
バルビゾン派を巡る画家たち展	8月27日 ～9月27日	美術館	自然主義の巨匠ミレーなどの作品約140点
石本秀雄展	10月2日 ～10月23日	美術館	佐賀県美術界の重鎮として、また佐賀県美術教育者として活躍された故石本秀雄画伯の回顧展

## 館内販売図録のご案内

図録名	単価	図録名	単価
売茶翁	1,200円	近代の日本画	1,600円
鏡・玉・剣	1,500円	近代・九州の洋画家たち	1,500円
岡田三郎助	1,700円	佐賀県立博物館	300円
山口猛彦	1,000円	肥前の中世美術	1,800円
北島浅一・御厨純一	1,800円	古代史発掘	1,900円
佐賀県方言語典	350円	佐賀県の歴史と文化	800円

博物館・美術館報 第76号  
発行年月日 昭和62年3月30日  
編集 大塚正道

発行 佐賀市内1丁目15番23号  
佐賀県立博物館  
佐賀県立美術館  
印刷 南大同印刷